

## 陳 述 書

2020年3月12日

橋本かほる

1 私は、現在住んでいる家の隣に生まれ育ちました。短期大学を卒業し、日本航空株式会社に就職し、当初は羽田空港勤務でしたが、成田空港にも仕事が入るようになり、1978年に千葉県船橋市へ引っ越しました。その後、結婚・出産を経て、私の両親から「近くに住んでほしい」と頼まれ、1990年2月、実家の隣に現在住んでいる家を見て、家族で引っ越してきました。

2 私の家は、高さ50メートルほどの崖のふもとに建っています。崖と家との間は2メートルほどしか間がなく、崖にはコンクリートで固めるなどの工事はしておらず、木や草が生い茂っている状態です。傾斜はかなりきつく、70度か80度はあると思います。

隣の実家の裏も同じような崖になっています。私が小学生のころ、実家の裏の崖が崩れて、家と崖の間にあった物置が土砂で潰れたという事故が起きました。その事故もあって、実家の裏の崖には行政が補修工事を行い、コンクリートで壁を作りましたが、今住んでいる家のところまでは壁を作らなかった。

3 そのような地形のところですので、ここは、『急傾斜地崩壊危険区域』『土砂災害警戒区域（急傾斜）』『土砂災害警戒区域（土石流）』に指定されています。

2020年1月末ころに、土砂災害警戒区域等に関する基礎調査結果についての

住民説明会を開催するとの連絡が役所からありました。このような土地の災害に関する連絡が役所から来たのははじめてでした。私のところはもともと区域に指定されておりましたが、最近の豪雨の影響もあり、このような調査をすることになったのだらうと思います。

- 4 台風や豪雨が続くときは、雨水で裏の山が崩れるのではないかと本当に心配です。裏の山からは水が家の敷地に流れ込んできますし、家の前の道路には山や道路から流れてきた雨水で排水口が溢れ、池のような状態になり、水が数日引かないこともあります。

また、最近の台風の強い風もとてもこわいです。2019年9月の台風15号のときは、屋根が飛ぶくらい風が吹いて、家がふわっと浮く感じになったことが何度もあり、家が飛ばされるのではないかと恐怖を感じました。近所では、家の屋根がまるごと飛んで、駐車していた数台の自動車の上に落ちる事故もありました。夜通し停電にもなり、不安な日々を過ごしました。

- 5 最近の日本では、台風や豪雨があると必ず大きな被害が起こっています。最近の豪雨や台風の雨のときは、屋根を叩く音が前よりも強くなっていると感じますので、最近の熊本での豪雨や台風15号の千葉の被害をテレビのニュースでみていますと、次は自分が被害を受ける番なのではないかと本当に心配な日々を過ごしています。

- 6 横須賀石炭火力発電所の計画は、発電所計画地向かいのマンションに住む友人から2018年はじめの頃に聞きました。

このように日本でも世界でも異常気象が続いている中で、気候変動の原因になる二酸化炭素を大量に出す石炭火力発電所を作るなんて信じられません。これ以上気候変動による被害が出ないように、一人ひとりが行動しなければいけません。自分

の地元に計画されている石炭火力発電所の建設を止めなければいけないと思い、今回訴訟に参加することになりました。

以上

(2020年2月26日原告代理人久保田明人撮影：自宅と裏の崖の近接状況)

